

2016年7月号特集「宇宙の始まりに迫る」

宇宙の始まりは今から137億年前と言われている。はじめは高温で電子が飛び交って光が直進できずに不透明だったらしい。

その後(38万年後)「宇宙の晴れ上がり」と呼ばれる光で見通せるよう状態になった。その始まりの姿に少しでも迫ろうと現在いろいろな努力が払われている。この一見ファンタジーのような話に現実にどのような技術が使われているか、そのさまざまな先端技術に焦点をあてて迫ってみたい。

No.	タイトル	
1	特集にあたって	OplusE編集部
2	宇宙の始まりについて	東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構
3	ダークエネルギーの謎に迫るすばる主焦点分光器	東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構
4	すばる超広視野主焦点カメラとダークマター研究	国立天文台
5	TMTの光学技術と初期宇宙の解明	国立天文台
6	位相補償技術の進展	国立天文台
7	宇宙マイクロ波背景放射の精密観測と原始重力波	高エネルギー加速器研究機構
8	最先端光テクノロジーを使った重力波検出技術	国立天文台